

# 平成26年度第1回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成26年4月21日(月) 18:00～19:30

場所 であえーる岩見沢3階 会議室1

## 1 開会

## 2 議事

### 報告

(1) 一般市民向け及び事業所向けアンケート調査について

(2) 平成26年度の会議日程について

### 協議

(3) ニーズ調査に基づく量の見込みと現在の提供量について

①保育定員と保育の量の見込みについて

②幼稚園定員と幼稚園の量の見込みについて

③放課後児童クラブ定員と、放課後児童クラブの量の見込みについて

④多様な保育サービス(病児・病後児保育ほか)について

(4) 幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について

(5) 子育てストレスの解消について

## 3 その他

(6) 専門部会の設置について

(7) その他

## 4 閉会

- 配布資料
- 資料1 : 平成26年度第1回岩見沢子ども・子育て会議資料
  - 資料2-1 : 子ども・子育てに関するアンケート調査(広報折込)単純集計表
  - 資料2-2 : 子ども・子育てに関するアンケート調査(広報折込)グラフ
  - 資料3-1 : 子ども・子育てに関するアンケート調査(事業者)単純集計表
  - 資料3-2 : 子ども・子育てに関するアンケート調査(事業者)グラフ

事務局	1 開会(18:00)
委員F	2 会長あいさつ

事務局	<p>3 議事</p> <p>配布資料について説明</p>
事務局	<p>(1) 一般市民向け及び事業所向けアンケート調査について (説明省略)</p>
委員 F	<p>2つの調査の結果に関する報告ですが、ただいま説明した中での質問のある方はいますか。</p>
委員 F	<p>よろしいですか。ご意見がないということで、(1) はこれで終わりたいと思います。次に平成 26 年度の会議日程について、事務局の方から説明をいただきます。</p>
事務局	<p>(2) 平成 26 年度の会議日程について (説明省略)</p>
委員 F	<p>ただ今の説明についてご質問のある方はいますか。 ないようなので、次に(3) ニーズ調査に基づく量の見込みと現在の提供量について、①と②、③と④、分けて協議していきたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(3) ニーズ調査に基づく量の見込みと現在の提供量について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保育定員と保育の量の見込みについて</li> <li>②幼稚園定員と幼稚園の量の見込みについて</li> </ul> <p>(説明省略)</p>
委員 J	<p>26 年度についてですが、0 歳家庭の保育園のニーズは何人くらいですか。</p>
事務局	<p>ニーズ調査の対象期間が平成 27～31 年度になっているので、平成 26 年度の数は、ここにでてきていないのですが、平成 26 年度の入園状況は認可保育所の分だけの数はわかります。</p>
委員 J	<p>平成 25 年度から 27 年度に、57 人から 60 人になっていますが、平成 26 年度は中間くらいなのか、50 人代なのか。</p>
事務局	<p>先ほどご説明したとおり、27 人から 283 人という数字が出てきたことについては、0 歳児の回答のサンプル数が少なかったことによって、数字に歪みが出てしまったという結果になっています。</p>

委員 J	推測だからなんですけれども、今現在の4月の入園数でだいたい予測ができるのではないのでしょうか。
事務局	平成25年度と大きく変わらないと思います。
委員 J	今年は60人。
事務局	これについては追加で調査を行ってみたいと思っています。
事務局	平成26年度の数值は今、資料が届き次第お答えします。他にご質問があればお願いいたします。
委員 F	それでは、(3)③の「放課後児童クラブ定員と、放課後児童クラブの量の見込みについて」と、④の「多様な保育サービス（病児・病後児保育ほか）について」を協議していきたいと思います。事務局から説明お願いいたします。
事務局	<p>すみません、先ほどご質問がなかったのですが、協議のポイントとして、認可保育所定員の考え方をどうしていくかは、専門部会で決めていくわけなんです。事務局としては、0歳児は補足調査の結果を見てからでないとなんとも言えませんが、0歳児以外では現在と大きくかけ離れた数字が出ていないということで、期間中の保育定員の拡大縮小について協議する必要があるかどうかという点について、特にご意見があれば、お願いしたいと思います。</p> <p>その前に、今、資料が届きましたので、0歳児の保育定員なのですが、4月1日当初、68名になっています。</p>
委員 J	平成26年度、0歳児、68名ということは予測より多いということですか。
事務局	少し多いですね。
委員 J	だとしたら、その後は60名で推移すると考えるよりは多いかもしれないですね。
事務局	それは補足調査の結果を見てみないとわからないですけど、多くなることは考えられるかと思います。0歳児の補足調査は結果がまとまり次第、また会議の中でお話したいと思います。
委員 J	前回言いましたけれど、お子さんの数が500人から600人と増えていって、0歳児も保育ニーズがこの数年増えていく可能性が高いと思うんですよ。だとすれ

	ば、60名で推移するっていうのはちょっと当てが苦し過ぎる。
事務局	今回、資料では60人と仮におきましたけれど、これも再度ご協議いただきたいと考えています。
委員J	この数字が変わるのであれば、認可保育所の入所率も変わってくるんですか。
事務局	そうです。
委員F	この数字の変動は出産数の上昇だけじゃないですよ。
事務局	出産数とあと働き方です。
委員F	そうですよね。つまり0歳児から1歳児の間、お家で育てたいと思っけていても、経済的なことがあって、預けなきゃならないというご家庭もあつての数字ですね。
事務局	そうです。
委員F	今後は利用者が減ることよりも、増えてくる可能性の方があつる。岩見沢市がどう子育ての方針をたてるかということでも違つてくることではあつるが、影響を受けることですよ。
事務局	例えばフルタイムの就業の方であれば、育児休業がとれるような環境の方があつるのか、そうでない方があつるのか、ということにも左右されるかと思つます。 追加調査を見ないと、この時点ではまだ何とも言えませんが、ただ増えることは、予想されまふ。
委員F	それでは(3)③放課後児童クラブ定員と放課後児童クラブの量の見込みの説明をお願いします。
事務局	(3)「③放課後児童クラブ定員と放課後児童クラブの量の見込みについて」 (説明省略)
委員F	「放課後児童クラブ」と「多様な保育サービス」について説明があつました。ただ今の説明について何かご意見あつるませんか。
委員J	1つ目は、児童館の35人を超えるところがかなり多い様子なのであつるけれど、

	<p>この場合は受け入れが難しいとなれば、優先順位を決めて高学年を放棄して、低学年を優先順位で入れるというようなことが実際に行われるというのでしょうか。</p>
事務局	<p>この結果を見ると高学年の受け入れをどうするかというのは、これから検討していくわけですが、今のままでは児童館で受け入れるというのは難しい、ということになるかと思います。</p>
委員 J	<p>実際の児童館の受け入れは、年齢によって優先順位を付けているのでしょうか。</p>
事務局	<p>年齢によって、優先順位を付けるというよりは、高学年の受け入れを今のまま児童館でできるかどうか、高学年の受け入れ場所を変えるであるとか、児童館をもっと大きくするとか、どういった方法が良いのかというのを、これから検討しなければならない、と考えています。</p>
委員 J	<p>そういう別枠を作るってようなことですか。</p>
事務局	<p>実際には児童館を今、低学年が使っていますので、高学年に関しては、学校の余裕教室を使うですとか、そういった対応も必要になってくるかとは思っています。</p>
委員 J	<p>新たに市で枠を作るわけではなく、学校に預けるってことですか。</p>
事務局	<p>学校にそういう体制を作って、受け入れるという方法も1つあるかなと。</p>
委員 J	<p>そういうやって欲しいという提案をこの場ですることは可能なのですか。</p>
事務局	<p>それは可能です。</p>
委員 J	<p>2つ目の質問です。病児・病後児保育ですけれども、具体的な利用料金の設定は考えられているのですか。何年か前に他の自治体のアンケートで半日料金、2時間料金、1日料金で受け入れる人数が違ってくることがわかっています。短い単位で受け入れてくれると安く済むけれども、1日1,000円とか2,000円とかだと、負担になる。そういう料金設定とか時間設定とか、考えた上での人数推移でしょうか。</p>
事務局	<p>料金設定は、ニーズ調査の中で「一定の利用料金はかかります」という記載はあるんですけども、「いくらかかります」とは書いていないんですね。</p>

委員 J	具体的にはまだ決まっていないんですか。
事務局	これからの検討になります。
委員 F	<p>③ですけれども、低学年と高学年を分けたいからだったと思うんですけど、これは親へのニーズ調査です。子どもたちがどんな活動をしたいと思うかというのは、親の欲望の話です。低学年の子どもたちが本当に遊びを中心としたいのかどうかもわからないし、高学年の子たちも学習中心でありたいかどうかもわからないのです。</p> <p>そこで、ちょっとそのあたりを少し明確化して、親のニーズだけで分けられてしまいかねない。結局、遊び中心で自由に過ごすっていうのが、同じ場所が共有できないという結論のためにこのデータを持ってきて、とも読めてしまう。先ほどの、0歳児はもう少し丁寧に調査を行うというのと同じように利用者の子どもにも質問できればいいと思います。</p>
事務局	<p>低学年の遊びを中心に自由に過ごすというのは、これは国の「放課後健全育成事業」の方針です。ですから、岩見沢市独自に遊びを中心にと決めているわけではなく、国のこの事業が遊びを中心にした事業ということだったのです。</p> <p>高学年については、特にどういうことをしなさいということが、定めがあるわけでもなく、拡大についても、平成 27 年度からおそらく児童福祉法が改正・施行されるとは思うんですけども、地域の実情に合わせて、ということなので、一緒に活動させるかどうかとか、どういったことをやるかっていうのは、ある程度自治体の判断に任されているところがあります。</p> <p>この会議の中で、お話いただくことも重要だと思いますし、また専門部会の設置をして、その中でもっと具体的ないろんな意見をいただければ、と考えています。</p>
委員 F	<p>さっきの0歳児のニーズについてなのですけども、そうなってくると、岩見沢市がどういったビジョンを持って、子育てや次世代育成を考えていくのかというビジョンの問題が、もう1つ出てくると思うんです。そのあたりで何か、こういったテーマになってくる、とかあるんですか。それはどこでビジョンをだしてやることになるんですか。</p>
事務局	放課後のことではなくて、子育て全般に関してですね。
委員 F	<p>少しずつ出産数が増えていたり、もっともっと、岩見沢に子育てをする世代、家族を呼び込めるような戦略を持って、今後、子育てを考えていくのかとか、そうやって進めていくと議論が楽になります。</p>

事務局	<p>子育てに関するビジョンということについては、原案と言う形で次の会議でお示しをして、そういった方向でいいのかということも含めて、ご検討いただけるように、資料を出していきたいと思います。</p>
委員F	<p>さっきの0歳のニーズの話、私もJ委員もおっしゃっていたように、そういうビジョンがあって、使いますか、使わないですかという、感じだと思うんです。本当だったら、0歳から1歳の間は、家で子育てしたいんだけど、っていう方もいらっしゃるかもしれないし。だけど、経済的にはとてもそんなことは無理で、子どもを預けて働かなければならないんだという方もいらっしゃる。あるいは、その逆もいるかもしれない。専業主婦なんだけど、とても子どもと2人だと、虐待しかねないというか、苦しくてしょうがないから、むしろ預けたいというふうに思っている、というように、どういう選択が与えられているかということです。</p>
事務局	<p>今回の0歳児のニーズについては、就労状況とか、使いたいサービス、それに出生率の予測値をかけているような形で算出されるんですけども、ご本人がどのサービスを使いたいかっていうことは、多分その自分自身の働き方などにも影響を受けた上での記載になると思います。岩見沢市がここに力を入れていくので、どうしますか、という聞き方でなく、ご自身の働き方と、どの時点でどんなサービスを使いたいかというご希望と掛け合わせた推計値が出てくる、ということになるかと思います。</p>
委員F	<p>岩見沢市として積極的に、出ていくということにはまずならないのですね。</p>
事務局	<p>ニーズ調査の集計だけのためにということは考えてないです。</p>
委員F	<p>他よろしいですか。ご意見がなければ、(3)については、これで終わります。次に、(4)「幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について」事務局の方からお願いいたします。</p>
事務局	<p>(4)「幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について」 (説明省略)</p>
委員F	<p>(4)「幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について」、ご意見ご質問ありませんでしょうか。</p>
委員F	<p>このデータを見ると岩見沢の小学校中学校はいかに体を動かさせていないかということ逆を逆に考えさせられるようなデータです。</p>

事務局	小さいうちから遊ぶことが良い結果につながるのではないかと、ということも考えさせられます。
委員 F	これは、5年生から中学校2年生の追跡じゃないから遊びを通じたというこのテーマとずれる問題のようなデータに見えます。
委員 F	いかがですか。何かご質問はありますか。次に、(5)「子育てストレスの解消について」。
事務局	(5)「子育てストレスの解消について」 (説明省略)
委員 F	「子育てストレスの解消について」ということで、子育て環境としては、そんな感じですね。何かご質問はありませんか。
委員 I	情報の発信について、知らないために不満がある、必要な人に届いていないというお話を伺ったんですが、行政としてはどんな方法で情報を発信されているか教えてください。
事務局	まず、子育てガイドブックというのを市でつくっています。
委員 I	冊子ですか。
事務局	母子手帳を取りに来た時に差し上げたり、出生届を出された時に、確認させていただいたり、また転入の時には市民係の窓口で、お子さんがいるご家庭にはお渡ししたりしています。その他に、冊子にするとなかなか全部見るというのは大変なので、テーマを分けて、例えば一時預かりのパフレットですとか、産前産後ヘルパーのパフレットとか、テーマ毎に、手作りなんですけれども、1枚の紙にまとめて折ったものを子育て支援センターですとか、公共機関の窓口に置いたり、あとはホームページに載せたりというようなことをしてきました。
委員 F	つまり、今の方法だとうまくいかないということですね。
事務局	行き渡らないということが今回の回答で伝わってきました。
委員 F	もう少し何か活用の仕方、メディアの活用とか、インターネット活用のことを少し考えると良いかもしれませんね。

事務局	<p>フェイスブックを利用される方が、若い方にとっても多いので、その辺をうまく使って、こういうところを見たらわかりますとか、そういうふうには持っていければ、と考えています。</p>
委員F	<p>あと質問ですが、「ファミリーサポート担い手育成」のことなんですけれど、岩見沢市として何か担い手育成ってされていることありますか。</p>
事務局	<p>過去に1度担い手育成をして、「くるみ」というグループを作ったことがあります。その当時は厚生労働省の委託事業で、財政負担がなく講座を持つことができたので、その委託事業の範囲で講座をやって「くるみ」というグループを作って、ファミリーサポートに近い形のサポートができたのです。その後、追加で人材育成をしてこなかったで、その方たちがどんどん高齢化していってしまっ、体もきつくなってきたので、できなくなってしまい解散したという経緯があります。</p> <p>また、その他にもう1グループ、こういったことを目的にファミリーサポート事業をやりたいということで、意志のある何人かお友達が集まって、8人くらいでスタートしたグループが「はおはお」というグループなんですけれども。そこも、だんだんお子さんが大きくなっていくと、忙しくなってできないとかで、今3人くらいで回しているの、担い手となって登録してくれる方はいませんかというご相談を先日受けたのです。</p>
委員F	<p>「はおはお」の場合の研修を受けた方々は、岩見沢市の研修を受けたんじゃないで、例えばワーカーズコープかどこかがやっている担い手の研修を受けていたり、あとは、岩見沢市以外のところで、受けた方がほとんどだと思いますけれど、それは間違いないですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員F	<p>つまり岩見沢市として責任を持って、担い手づくりということはかつて1回やってきただけで、それっきり引き続きやってこなかったことになります。</p> <p>これからの病児・病後児の問題を考えても、そういうボランティアとか、今後は、子どもの遊び場ができた時などに、そこにいてくれる方々みたいな人たちを、担い手を作っていくようなスキームは岩見沢市にはないという。</p>
事務局	<p>そこが、うまくまわってこなかった原因かなと思うので、なんとかその取り組みをできればと考えています。こちらの会議の中で、そういった取り組みが必要であるというご意見をいただければ、私どもの取り組みのほうも、説得力を持って考えていくことができるかなというふうに考えております。</p>

委員 F	<p>民間の子育て支援の場所が岩見沢でそれほど増えないっていうのは、多分、下支えがないからです。気持ちのある人たちがくるけれど、だんだん小さくなっていくということが多くあります。</p>
委員 A	<p>「子育て情報の提供」について、説明をいただいたんですが、実は、センターの相談員に、子育てが色々大変だと相談をもちかけた方がいらした時に、窓口の方に、パンフレットを渡されて、これを読んでください。ここに色々書いてあるので、どうぞ読んでくださいと言われてたとのこと。そういうものを見てもやはり、本当に自分がこういうふうな助けが欲しいなというイメージを、文章だけから、じゃあここだっていうふうに、見つけることって案外難しいんです。特に若い子育て世代の方は、文章とか、色々なパンフレットを読んで自分が本当に必要な情報をそこからご自身で出すのはなかなか難しい、と相談の中から感じました。</p> <p>そのようなことがあった時に、窓口の方が、何にお困りでしょうかと声をかけたり、例えば音声とか、会話の中で色々な情報をもらいたいというニーズも結構あるんじゃないかな、と感じましたね。</p>
事務局	<p>それについては、すぐに取り組めることですので、福祉課のほうと連携して、こういったことに気を付けていこうと思っています。</p>
委員 B	<p>ストレスの解消で、よく子育てに本当に疲れちゃったというお母さんがいて、というようなニーズについて、あまり読み取れないんですけども、いわゆるショートステイを含めたサービスの利用についてなんです。そういったニーズっていうものについては今回の調査の結果から、岩見沢市としての取り組み、事業化というところを、ちょっと聞かせていただきたいのですが。</p>
事務局	<p>設問の中の使ってみたいサービスの中にショートステイという選択肢があったんですけども、その数自体がさほど大きくは出ませんでした。今ここでショートステイをやります、やりませんという判断はなかなか難しいんですけども、ショートステイについては、本人が使いたいということに加えて、育児困難な家庭に接した時に、ショートステイがあればフォローできるのに、と事務局として感じることもあります。そういったことを総合的に判断して、取り組むことができるかどうか、検討したいと思っています。ショートステイやトワイライトステイについては、市としても取り組むのか困っているところではあり、今回のニーズ調査の結果に加えて、こういった場合に必要なんだっていう考え方を組み合わせて、検討していきたいと思っています。</p>
委員 B	<p>いろんな相談を受けている中で、お母さんがもう子どもの顔をみたくないって</p>



	<p>でしょうか？</p>
事務局	<p>児童相談所の里親の関係と、市との関連はほとんどないんです。</p>
委員B	<p>里親の制度というのは都道府県が中心になると思いますが、子どもさんの支援というところからいうと、やはり市町村の方々に積極的に関わっていただくというのは、大変ありがたいと思います。実際には里親の方々に一時的に短期間でお預かりいただくケースも、実際にはございます。一方で、虐待のケースではコミュニケーションの形成ですとか、そういう問題もあって、一概に、その里親さんのところへすぐってというのは、また難しいケースが多いというのは、実態としてあると思っています。</p>
委員A	<p>里親制度自体がなかなか一般の方にも理解がされづらいことがあったり、里子さんを預かっていなくても、里親さんの登録をされている方の多くは、子育てや子どもさんや、子育て関係について関心があったり、素養のある方が多くいらっしゃいます。里子さんを受け入れた時に、地域の方々としっかり協力しながら、地域が子育てに貢献できるようなこともできるのではないかと思います。今後、児童相談所の里親さんの色々な施策を含めてなんですけれども、地域、市との関連や連携も必要なのかなあと感じています。</p>
委員D	<p>質問なんですけど、「ははおは」で今登録されている方が、保育サービス研修を受けた方が40名ほどいると聞いたことがあるんですけども。</p>
事務局	<p>実際に動ける方は3名だそうです。</p>
委員D	<p>先ほど、3名と言っていたので驚きましたが、40人登録しているって理解していました。40人もいれば、もっともっというろんな場所で、病児保育とかができると思ったんですけど、3人しかいないのですか。</p>
事務局	<p>研修を受けて一旦活動に入られた方はたくさんいらっしゃると思うのですが、今、現実に動ける方は3名しかいないので、何か協力してもらえませんか、というお話を先日いただいたので。やはり続かないんですね。どんどん育成していかないと、回転していかないとと思っています。</p>
委員D	<p>私や私の友達なんかも、結構子どもが大きいので、何か自分にできないだろうかっていう時に、その保育サービス研修みたいなのが、岩見沢に例えばあれば、結構協力してくれる人って出てくるんじゃないかな、と思ったりもするんです。子どもって、保育所とかに入ると、まず病気のオンパレードじゃないですけど、</p>

	<p>一般的に、うつされて、すぐ病気をするので、就労したはいいけれども、すぐ休んでしまう。会社によっては、こんなに休まれるんじゃ使いものにならないとなってしまう、という悪循環が多いのです。今働こうとしているお母さんたちがすごく多い中で、また働かなきゃいけないという家庭の人が本当に今多いと思うので、やっぱり1ヶ所の「はおはお」で、しかも3名しかいないっていうのは、少ないんじゃないかなって思います。そこは早急に育成とか、そういう場を多く設けてもらえたら、うまくまわっていくんじゃないかなと思います。</p>
事務局	<p>岩見沢位の人口であれば、ファミリーサポートセンターがあっても不思議じゃないんですけども、これまできちんと取り組んでこなかったというか、民間にちょっと甘えていたところもあったかと思いますので、その辺もこの事業計画の中で位置付けをして、検討していきたいと思います。</p>
委員F	<p>担い手の育成のための研修って、だいたい30万円くらい予算かかります。教えてくれる先生を招いたり、会場を借りたりです。</p>
委員J	<p>身近に教えている人がいて、札幌とか江別とか小樽などに毎月ほとんど動いて行っている人はいます。</p>
委員F	<p>そういう形でいろんな人たちの力を借りて、受講者は無料だと、やっぱりその30万円をどうやって集めてくるかって、とても大変なことです。そのあたりのところは30万円は安いと見るか高いと見るか。それで何十人もの担い手が育成できると考えればいい。</p>
委員F	<p>何か他に質問はありますか。</p>
委員A	<p>子育てガイドブックをどんな形で作られていたり、改訂されていますか。</p>
事務局	<p>子育て支援係で、改正された部分を修正して、印刷をするという形なんですけれども、まとめた部数を作るので、1回作るとやはり2年間とか使うことになります。大きく制度が変わる場合は、正誤表なんかをはさむこともありますけれど、だいたい2、3年に1度くらいのサイクルになります。</p>
委員A	<p>作る時には市民の色々な方々の情報が集まった形ですか。</p>
事務局	<p>いえ、これまでそういうふうな形で作ったことはなくて、子育て支援係の担当者が作っています。</p>

委員 A	<p>例えば、子育て世代のお母さん方のサークルとか、そういう方々と一緒に市内を歩いて、例えば飲食店とか美容院とか病院とかの自分たちが欲しい、色々な子育ての情報を見ながら、また、今ネットでいろんな事が検索できるわけですが、ネット上のことが本当にどういう形になっているのか、実際に目にしながら、つくっていくというようなことを通してできるとレベルが高くなります。</p> <p>そういったことに参加をすることによって、色々な子育ての情報やサークルとのつながりができてくることもあると思うので、小さな市町村ではよくやっていますが、岩見沢市も色々な形でそういうような情報誌の取り組みもいいんじゃないかなと考えました。</p>
事務局	<p>今までのガイドブックというのは、主に公的制度を紹介するものであったり、施設の利用時間を紹介するものになっていて、保護者の方たちが本当に知りたいものだったかというのもちよっと疑問なところだという反省は持っています。次の改定時期に今の様な取り組みができればいいなと私自身も思っていますので、参考にさせていただきたいと思います。</p>
委員 F	<p>それでは、次のその他のほうにいきたいと思います。専門部会の設置についてお願いします。</p>
事務局	<p>資料をお配りさせていただきます。放課後児童対策の専門部会に6名の委員と特別委員に民間の放課後児童クラブから1名、助言者に放課後デイサービスから1名の参加を予定しております。また保育の基準に対しては、5名の委員と特別委員に認可外保育園から1名の参加を予定しております。こちらの資料は原案ですので、希望などがありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。</p>
委員 F	<p>いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局原案でよろしければ、部会毎に分かれていただいて、この場で会議の日程について決めていただきたいと思います</p> <p>(協議)</p>
事務局	<p>日程のご確認ということになりますが、放課後児童対策については、5月13日火曜日、7月7日月曜日、いずれも18時からということで。保育等基準については6月16日月曜日、7月28日月曜日のいずれも18時からということで、よろしく願いいたします。最後に(7)その他ですが、委員の方からもし何かあれば、ないでしょうか。なければ、第1回子ども・子育て会議を閉会させていただきます。本日は大変ありがとうございました。</p>

	閉会 19 : 30
--	------------